浦和大里小学校だより

７月号　令和５年７月３日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成

五感を満たす

校　長　　中野　緑

日差しがみるみる力をつけ、太陽が強く存在を主張してきます。日傘をさしたり、首を冷やしたりしながら登下校する児童も増えてきました。

さて、６月１０日～１２日、５年生がたかつえ自然の教室に行ってきました。以下、振り返りカードからの抜粋です。

・一番心に残ったのはゲレンデトレッキングです。きつい坂道もあったけれど、友達と協力して登りきることができました。協力して何かを成し遂げるよさを学びました。
・焼き板は火をつけるのがたいへんだったけれど、活動班で協力してつけることができました。焼き加減や、模様がどのようになるか、ドキドキして楽しかったです。
・都心では感じられない自然を、五感を使って体全体で感じられました。
（係の仕事である）キャンプファイヤーでは、みんなを楽しませるために考えて行動できたし、自分も楽しめました。
・１番思い出に残ったのは川魚さばきです。この体験を通して、改めて命の大切さを知ることができました。そして、魚はとてもおいしかったです。

親と離れて、子どもたちだけで過ごす３日間です。４月から、５年生にかかわる職員は、実りある体験にしようと「やるべきことはきちんとやる」「自分たちで声を掛け合って行動する」ことを繰り返し、指導してきました。思春期にさしかかった、多感で吸収力にあふれたこの時期に、非日常的な空間の中、友達と助け合って集団生活を送ることから学ぶことは数多くあったと思います。眼下に雲が広がる様子、掌に感じるぴちぴちと跳ねる魚の動き、朝のゲレンデに出たときの何とも言えないにおい、エゾハルゼミの声、炎の熱さ、友の励まし・・・。五感を満たす様々な体験の中で、子どもたちは社会性や自尊感情を身に付けていきます。

学校運営協議会や育成会の会議に出席すると「子どもたちに本物のよさを体験させたい！」という思いを聞くことができます。学校での自然体験活動や校外学習だけでなく、日頃の学習での「体験」も大切にしています。例えば、算数の体積を求める学習で立方体に１㎤の積み木をつめてみたり、朝顔や野菜を育てたり、家庭科で卵をゆでたりするなどは、教科の学習を進める上で欠かすことのできない「体験」です。もっといえば、目と耳で理解した計算の仕方で実際に解いてみることや、学んだ言葉を実際の文章で使ってみることも「体験」です。子どもたちが直接事物・対象に働きかけ、かかわることによって、たくさんの効果が生まれると考えています。

自分から知りたくて質問したことについては、相手がどのように答えるか漏らさず聞き取ろうとします。反対に、一方的に浴びせられる言葉は、なかなか耳に入ってきません。体験は、自ら働きかける活動です。「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、体験したことは理解する」といいますが、自ら働きかけ、五感を満たして体験したことは、子どもたちの体に染みいり、生きる力となっていくはずです。

◆学校ホームページ内において子どもたちの日常を発信しています。「学校生活」をぜひご覧ください。◆